読売 俳壇

矢島 渚男 選

日向ぼこ短気の父の遺品われ　川口市　高橋まさお

【評】父はせっかちでゆっくり休めない人だったが、自分もやっぱり、日向ぼっこはどうも落ち着かない。似ているなあ。「遺品」とは愉快。

牛がゐて犬がよろこぶげんげ畑　神戸市　吉野　勝子

【評】牛に出会ってなぜ犬が喜んだのか考えるのも楽しい。こんな大らかな句に出会えるのも春らしい。

同じ空同じ山見て龍太の忌　山梨県　一瀬　利彦

【評】同じ県の近所の人というだけで誇らしい。それだけで嬉しい。私は隣県だが、幾度かお訪ねし強い影響を受けた。「大きな句を作りなさい」。第一句集を出したときに頂いた言葉だった。龍太忌は二月二十五日。

掛魚まつり漁師の肩に春の風　にかほ市　渋谷　正秀

悲鳴にも聞こえ氷湖の軋みかな　栃木県　あらゐひとし

山茶花の北限の地の氷点下　盛岡市　堀米　公子

駅地下のうぐいす餅と友訪ぬ　宮若市　光富　渡

ごゆっくりどうぞの語順独り鍋　東京都　関根ともみ

寒明けの空へ缶蹴る親子かな　市川市　をがはまなぶ

二兎を追い大成したり春星忌　町田市　鯉渕　洋子

高野ムツオ 選

飽きもせで根木を打ちし兄逝けり　川崎市　多田　敬

【評】根木打ちは冬田や雪上などに先を尖らせた棒を打ち込み、相手の棒を倒せば勝ちという子供の遊び。負けん気の強かった兄だったのだろう。弟の痛哭の声が聞こえる。

伊那谷は吹き下ろす谷凍豆腐　東京都　天地わたる

【評】山脈に挟まれた伊那谷はシベリアからの風が山を越え吹きつける。寒さ厳しいが、美味しい凍豆腐もできる。リズムが格調高い。

地を蹴つて闇へ跳び込む恋の猫　埼玉県　小町　季生

【評】猫の目は暗い方がよく見える。それでも真っ暗闇に飛び込むのは勇気が要りそうと思うのは臆病者だからか。恋は盲目であればこそ。

椴松の凍裂森を震はしむ　国分寺市　野々村澄夫

山眠る麓の村も蹲る　川口市　清正　風葉

雪国へ汽笛まっすぐ滑り込む　神戸市　山口　誠

酒酌みし囲炉裏も父母も妻も無し　寒河江市　大谷　正行

コンビニ煌々冬の月冴え冴え　宍粟市　宗平　圭司

兜太忌の硝子の歪み梅三分　横浜市　鈴木　基之

鈴鴨やベンチに残る缶コーヒー　上尾市　山口　流離

正木ゆう子 選

鮟鱇のような私の日曜日　龍ヶ崎市　冨山　俊幸

【評】なんという比喩か。少なくとも活動的ではない。服装も、なんとも言えない色。深海の砂に潜って、獲物が通りかかるのを待つ。わが事のようと、共感する人もいるかも。

雪解風薄き雁皮の帯を解く　札幌市　下内　蛍山

【評】極薄の雁皮紙の束の帯封を解く。上等の和紙なので、帯も和紙で、たぶん折紙のような結び方。だから切るのでなく、はらりと解く。

側溝に覗く実生の椿かな　横須賀市　橋本　徹

【評】側溝に水を落とす穴から植物が生えることは確かにある。花が咲いて、なんと椿だった。正真正銘の実生。真上の木の種が落ちたのだ。

野焼きして馬の骨見す都井岬　日南市　宮田　隆雄

きみの世の消えて巡るや春の空　横須賀市　平野　雅夫

杖デビュー水仙の束届けたし　奈良市　甲斐田八重

梟に体幹学びたき齢　津山市　沢　紅子

ひからせてたからのやうに畦を塗る　香取市　坂本　西清

浅葱は出たかと夫に問われたき　東京都　松永　京子

夕焼の鴨の行進池を出る　さぬき市　塚原　賢治

小澤 實 選

一片のパンに飛び来る鴨百羽　日高市　佐藤　隆夫

【評】池の縁に来て、パンの一片を取り出したら、鴨がつぎつぎに集まって来てしまったというのだ。かなり飢えているのだろう。ちょっと恐怖まで感じていそうだ。

寄せ鍋はフライパンですワンルーム　京都市　滝村　実

【評】寄せ鍋といえば鍋という先入観があるが、このワンルームマンションに住む若者はフライパンを使う。ものを増やしたくないのだ。

マフラーで鼻までも巻き女子高生　行田市　小河原一路

【評】マフラーで鼻の部分までも巻き、覆い、女子高校生は寒さの中登校していくのだ。上五中七がたしかなスケッチになっていていい。

ペンダントに合わすセーター選びけり　門真市　皆木多恵子

浜風に焔盛るやどんど焼き　神ケ浦市　浜野まさる

炬燵から顔だけ出して猫眠る　川崎市　堀尾　笑王

冬霧に碇泊灯のにじみけり　武蔵野市　相坂　康

こんもりと盛る菜の花のからしあえ　松山市　久保　栞

灯油屋の両手にタンク雪予報　熊谷市　小林　幸子

雪載せて列車一両入線す　八王子市　渋川　弘

枝しおり折

石川美南編『永井陽子歌集＃』『永井陽子歌集♭』　没後25年の歌人、永井陽子さんの文庫歌集2冊。音楽性豊かな歌が並ぶ。〈ひまはりのアンダルシアはとほけれどとほけれどアンダルシアのひまはり〉（短歌研究文庫、各1980円）

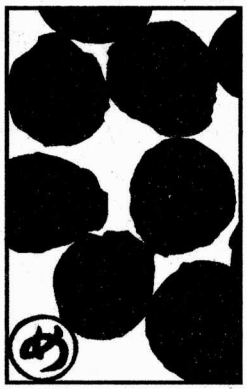
◆第42回兜太現代俳句新人賞＝百瀬一兎「火の聲」（50句）

◆第64回俳人協会賞＝石田郷子「万の枝」（ふらんす堂）、谷口智行「海山」（邑書林）

◆第48回俳人協会新人賞＝浅川芳直「夜景の奥」（東京四季出版）、桐山太志「耳梨」（ふらんす堂）

◆第39回俳人協会評論賞＝小川軽舟「名句水先案内」（角川文化振興財団）、村上喜代子「大野林火論―抒情とヒューマニズム」（コールサック社）

◆第39回俳人協会評論新人賞＝中本真人「新潟医科大学の俳人教授たち」（新潟日報メディアネット）



題字デザイン・イラスト　福田美蘭